

5/2 CS 奨励 ~申命記 6章 16~25節

「神様への感謝から十字架を守ろう」

担当：森川 莞太

■ 奨励

おはようございます。依然としてコロナの影響により、教会にみんなで集まり御言葉に耳を傾ける、共に祈る、賛美することは難しい状況ではありますが、同じ神様からの御言葉（聖書箇所）を読み、恵みに与る時間を持ってください。

まずは、対象の聖書箇所を朗読してください。申命記 6章 16~25節

主イエスは、「マサにいたときにしたようにあなたたちの神、主を試してはならない、あなたたちの神、主が命じられた戒めと定めと掟をよく守り、正しいことを行いなさい、そうすれば、あなたは幸いを得、主があなたの先祖に誓われた良い土地に入って、それを取り、主が約束された通り、あなたの前から敵を追い払うことができる」（16~19節）と言われました。

まず、マサにいたときにしたような主を試すとはどういうことなのでしょう。いきなりマサにいたときにしたこと？と言われてもパッと思い出すことは難しいですね。。それは過去、マサという地でイスラエルの民が、飲み水をめぐって「主なる神が良い土地に導いてくださる」という神の約束を疑ったことがありました。主を試すということは、主の約束を疑うということです。

みなさんもこれまで主を試してしまうような経験はなかったでしょうか。思い返してみてください。何か物事がうまくいかない時、思い通りにならない時、辛いとき、悲しいときなど私たちにとって試練にある時に、神様に祈り、より頼むことが大切になるのですが、不平不満を言ってしまったことはないでしょうか。。

聖書箇所には、主を試すようなことはせず、主が命じられた戒めや定め、掟を守り、正しいことを行うことにより、幸いを得させてくださいと記載されています。

“命じられた戒め”に関しては、私たちが小さいころから唱えている十戒がありますね。すでに暗記している人も多いのではないのでしょうか。ただ口に出して唱えるだけでなく、一つ一つ守ることができているか、正しい行いができているか今一度自分自身に問いかけてみてください。主が命じられたことを守ることにより、私たちは幸い、恵みを得るのです。

また、まだみなさんにとっては早い話かもしれませんが、将来自分の子供に「神様が命じられた定めや掟、法律は何のためにあるのか、どういうことか？」と聞かれた際はどのように答えますか。今はなかなか想像することが難しいですね。。しかし、神様は聖書の中でどのように答えるべきかを教えて下さっています。（21~25節参照）

遠い昔、イスラエルの民はエジプトの地で奴隷としてひどい苦しみを受けていましたが、主の力強い導き

によってエジプトの奴隷の地から解放し、誓われた地に導いてくださいました。それは私たちが、主が命じられた掟を守り、主を畏れるようにするためであり、いつまでも私たちが幸せに生きるためであったのです。

今回の聖書箇所は、主を疑うことをせず、主の約束に従って歩むことが大事であるということをお伝えとともに、主の恵みを後の世代に語り継いでいくこと、宣べ伝えていくことも大事であるということをお伝えしたいです。主イエスが私たちの罪のために十字架にかかって死んでくださったこと、そして復活されたことにより、私たちを救い出してくださったという大きな恵みがあります。もうみなさん中高科はCSの枠組みの中であると最年長になります。同じ神の家族として、年下の子たち、将来の自分の子供など後の世代にも、主の掟を守り、主の恵みを受ける幸いを伝えていきましょう。

引き続き健康管理には気をつけてください。コロナが落ち着き、また教会で会える日を楽しみにしております。